

「神の子としての祈り」

マタイの福音書 6章5～8節



イエスキリストが「祈り」について教えられた箇所を、もう一度読みます。私はある時まで、祈りを神様が聴いておられることを学んではいましたが実感がありませんでした。ですから自分の祈りの聞き手は神ではなく自分でした。

正しくまた整えられた言葉で祈ることは素晴らしいことです。しかしそれ以上に大切なことは、仮に私たちの祈りがどんなに貧しい言葉であったとしても、神様が聴いておられることを心から信じていることが大切なのです。その現実感を失った祈りについて、イエス様は厳しく語られています。

① 「偽善者」のように、自分の満足をもとめる必要はない

“また、祈るとき偽善者たちのようであってははいけません。彼らは人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。” 5

“あなたがたが断食をするときには、偽善者たちのように暗い顔をしてはいけません。彼らは断食をしていることが人に見えるように、顔をやつれさせるのです。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。” 16

② 「異邦人」のように、自分の力や熱心さに頼る必要もない

“また、祈るとき、異邦人のように、同じことばをただ繰り返してはいけません。彼らは、ことば数が多いことで聞かれると思っているのです。ですから、彼らと同じようにしてはいけません…” 7-

“パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』” ㊦ 18:11-

③ 父なる神様への完全な信頼をもって

“ですから、彼らと同じようにしてはいけません。あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。” 8

“ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。あなたの名が…、あなたの国が…、あなたのみこころが…』” 9-

◎思い巡らし話し合ってみよう

- ・自分の中にも、イエス様が「偽善者」「異邦人」という言葉で表された性質があるでしょうか。思い巡らしてみましよう。